



宮崎国際大学

(初版：2019年3月31日発行)

アクティブ・ラーニング 事例集 (国際教養学部)

大学教育再生加速プログラム
テーマⅠ・Ⅱ複合型



内 容

この冊子の狙いと構成	02
アクティブ・ラーニングの手法の体系化	03
アクティブ・ラーニングの手法の詳細	04
事例集パートⅠ	07
事例 1 世界市民入門	08
事例 2 経済学入門	11
事例 3 英語 (ESL) No.1	14
事例 4 英語 (ESL) No.2	17
事例集パートⅡ	21
事例 5 英語 2 No.1	22
事例 6 アカデミック・ライティング 2	25
事例 7 英語 2 No.2	30

事例集パートⅠでは、実際の授業での AL の事例を提示し、事例集パートⅡでは、普段の授業で使っている AL の手法を模擬授業の形で実施し、受講した学生が学修成果の観点から授業評価を行い、その学修効果を検証する取組を実施しました。



この冊子の狙いと構成

宮崎国際大学は、グローバル化社会において活躍できる人材の育成という教育目標の実現のため、20年前の開学当初からほぼ全ての授業で英語を用いたアクティブ・ラーニング (AL) を行うという特色ある教育を実施してきました。本学の国際教養学部の教員の 7 割以上は外国出身の教員で、学生は日本にいながら国際的な教育環境の中で、日々の学修に励んでいます。本学は、平成 26 年に、文部科学省の大学教育再生加速プログラム・テーマⅠ (アクティ

ブ・ラーニング) とテーマⅡ (学修成果の可視化) の複合型に採択されました。

今回採択された本学の取組は、これまでの教育実践を基盤に、本学教育の主要な学修成果であるクリティカル・シンキング (CT) と英語スキルの可視化を行い、これらの修得を最大化させる AL の手法の開発、実践及び体系化を行うもので、以下の 4 つに取り組んでいます。

1. 授業での AL の手法の実態把握・体系化及び AL の指導力の向上
2. CT 能力の可視化のためのテスト開発
3. ルーブリックによる学修の PDCA の確立
4. e ポートフォリオ上での学修成果の可視化

本冊子では、テーマⅠ (アクティブ・ラーニング) への取組の一環として、本学が体系化した AL の手法を基に、授業での AL の実践例をまとめました。本学の分類に基づいた AL の手法、授業手順、そして、学修成果をまとめました。AL の授業において、学生が単に行動的にアクティブになるだけでは、その目的は達成されず、教育効果も薄れてしまいます。そこで、本冊子では、学修成果を明確にし、英語で授業を実施する国際教養学部で重要な英語力の具体的なスキル (リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングなど)、また、開学以来重視している CT 能力を育成する AL の手法をまとめました。

目標とする英語スキルは、各英語スキルに対して、どの程度有効なのかを 3 段階 (0.5 刻み) で表しました。CT 能力は、本学が分類し、開発中のテストで測定する 7 つの CT の技能 (①重要な情報の特定、②情報の正確性を見極め、③問題解決の方法と攻略法、④情報の分類化、⑤多面的思考、⑥情報の活用、⑦演繹的推論) を盛り込んでいます。また、教員及び学生のコメントも収録し、授業の様子がわかるように工夫しました。

アクティブ・ラーニングの手法の体系化（宮崎国際大学 国際教養学部）

国際教養学部の教員へのインタビュー及び授業観察を実施し、教員が使用している AL の手法を分析し、AL の特性に応じた以下の 33 種類 AL の手法を特定した。

外向き：他者と共に行う学習活動

内向き：思考や記述など、個人で行う学習活動

準備型：事前に準備が必要な学習活動

即興型：その場の状況に応じて展開する学習活動

AL の分類

分類 1：内向き-準備型（全 7 種類）

1. クリエイティブ・ライティング
2. 自己評価
3. 言い換えや要約の記述
4. フィードバック・アンケート／レポート
5. ジャーナル・ライティング（振り返りの記述）
6. リアクション・ライティング
7. 卒業論文やリサーチペーパー

分類 2：外向き-準備型（全 6 種類）

1. スキットやドラマ制作
2. ディベートやパネル討論
3. プレゼンテーションやリバーズ・プレゼンテーション
4. 創造的な朗読
5. アンケートやインタビュー
6. ピア・ティーチング

分類 3：内向き-即興型（全 5 種類）

1. 作文についての筆記による相互評価
2. 熟考する時間
3. アクティブ・リスニング
4. 読解
5. 非言語での言い換えや要約

分類 4：外向き-即興型（全 11 種類）

1. 対話式講義
2. ファシリテートされたディスカッション
3. 自由討論
4. 事例研究
5. ロールプレイや即興スキット
6. ジグソー・アクティビティ
7. 口頭での言い換えや要約
8. インフォーマルなディベート
9. 質問に対するグループワーク
10. ペアで考えてシェア・グループで考えてシェア
11. 作文についての口頭での相互評価

分類 5：すべてのカテゴリーに含まれる AL（4 項目）

1. 学生が協力して行うプロジェクト
2. 実地研修やシミュレーション
3. 地域コミュニティに根ざしたプロジェクト
4. 学生による評価基準の作成

アクティブ・ラーニングの手法の詳細

分類1：内向き-準備型（全7種類）

1. クリエイティブ・ライティング

物語の作成、登場人物の発展、その他の文学的要素を用い、考えや感情を記述する。

2. 自己評価

教員が作成した授業の評価基準に照らし、学生は自分のパフォーマンスを自己評価する。

3. 言い換えや要約の記述

要点を自分の言葉で言い換えたり、まとめたりして記述する。

4. フィードバック・アンケート／レポート

学期中に数回、又は中間期に、学生は授業についての評価やフィードバックを行う。楽しかったり、効果的だった授業内のアクティビティや取り組みたいアクティビティ、又は、学修効果を向上させるための行動目標に関するフィードバックを行う。

5. ジャーナル・ライティング（振り返りの記述）

学生は、授業や課題に対する自分の考え、勉強法、成功や失敗などの様々なトピックについて書く。ここで言うジャーナルとは、振り返りに重点をおいた記述で、文献のリサーチ等は余り必要としない。教員がフィードバック、編集、評価などをする場合もある。スラスラと書く練習なので、通常成績はつけず、文法もチェックしないことが多い。

6. リアクション・ライティング

学生は読んだ文章に対して自分の意見を書く。読んだ文章の要約を書いた後、自分の意見を書く場合が多い。

7. 卒業論文やリサーチペーパー

学生は文献を読み、詳しい調査を行い、命題、仮説及び研究課題を立て、論文のアウトラインを作成する。担当教員の指導の下、書いては編集・訂正するというサイクルを繰り返し、論文を完成させる。

分類2：外向き-準備型（全6種類）

1. スキットやドラマ制作

学生は、クラスメイトと共にクラス全員の前で、与えられたストーリーの台詞を言う。授業外の時間でリハーサルが必要な場合も多い。言語習得が目的の場合は、特定の言語パターンや表現を使う。ドラマ制作では、準備のための十分な時間が与えられ、学生は複数の場面を含む演劇の脚本を作る。演じる学生は1～10人位で、小説の一場面を演劇にすることもある。

2. ディベートやパネル討論

学生はあるテーマについて、予め決められた方法で、賛成か反対かに分かれ、議論を進める。大抵の場合、授業外の時間に準備をする時間が与えられ、発言する時間は予め設定されている。パネルディスカッションでは、学生がグループ毎に与えられたテーマについて調べ、クラス全体の前でディスカッションを行う。学生は他のパネルメンバーの見解に対して意見を述べたり、質問したりする。

3. プレゼンテーションやリバーシ・プレゼンテーション

学生は、小グループやクラス全体に対して、個人又はグループで発表をする。プレゼンテーションの内

容は、個人又は3～5人のグループで準備し、スライドやポスターを作る場合もある。リバーズ・プレゼンテーションとは、通常の発表と同じように、個人や小グループで内容を準備するが、発表を聴く学生が質問し、それに発表者が答える形で進められる。

4. 創造的な朗読

個人又はグループで小グループやクラス全体に向けて、丸暗記ではなく、自分の創作を交えながら詩や文章を朗読する。

5. アンケートやインタビュー

学生は問いを立て、データを集めるためのアンケートを実施したり、フィールドワークを行ったりする。

6. ピア・ティーチング

個人又はグループが先生役となり、小グループやクラス全体に対して、授業を行う。講義型の一方通行な授業でも良いし、ワークショップや参加型のレッスンでも良い。教員が予め準備したパワーポイントを使うなど、ある程度構成される場合もあれば、自由に行う場合もある。

分類3：内向き-即興型（全5種類）

1. 作文についての筆記による相互評価

学生同士で、作文を見せ合い、互いにコメントし合う。教員や学生が作った作文の評価表を使っても良い。コメントは用紙に記入し、筆者に渡す。

2. 熟考する時間

授業中に学んだり、読んだりしたことに対して、学生が振り返り、感想や意見をまとめる時間を取る。

3. アクティブ・リスニング

理解が難解な講義やリスニングの文章について、キーワードや全体的な意味を拾うよう、学生に指示をする。学生は、何度も繰り返し聞くことで、徐々に全体的な意味を聞き取ることができるようになる。

4. 読解

学生は文章を表面的に読むのではなく、文章の意味を深く考える。（詩を読む時などに活用される。）

5. 非言語での言い換えや要約

学生は、言語以外の媒体（例えば、図、グラフ、チャート等）で、講義や文章の要点を言い換えたり、まとめたりする。

分類4：外向き-即興型（全11種類）

1. 対話式講義

学生は頻繁に質問、意見、見解を述べるのが義務付けられている中で、教員が講義を行う。

2. ファシリテートされたディスカッション

学生1人がファシリテーターとなり、他の学生は、割り当てられた役割を担当し、ファシリテーターの指示に従いディスカッションを行う。

3. 自由討論

決められた時間内に、または時間制限なく、与えられたトピックに関するディスカッションを行う。役割は決められておらず、学生が自由に行う。

4. 事例研究

学生は、教員が提示した事例について深く調査し、最適と思われる解釈や結論を出す。

5. ロールプレイや即興スキット

学生は短い演劇での役割を演じる。通常は、授業の中で台本を書き、役を演じるリハーサルを行う。また、即興スキットでは、適切な言葉や表現を使って、与えられた場面を即興で演じる。

6. ジグソー・アクティビティ

学生は、お互いに異なる情報を持ち、課題を完成させる為に、お互いの持っている情報を伝え合う。別の方法として、学生はグループ・ディスカッションに参加し、その後、別のグループに移動し、前のディスカッションの内容を報告する。

7. 口頭での言い換えや要約

学生は、ある文章を口頭で言い換えたり、自分の言葉で要点を述べる。

8. インフォーマルなディベート

学生は、余りルールのない中で、あるテーマに賛成か反対かの意見を自由に述べる。大抵の場合、事前に準備をすることはなく、時間の制限も緩やかである。学生は、どちら側の意見につくかは自分で決めることができる。

9. 質問に対するグループワーク

提示された質問に対して、グループで協力して答える。

10. ペアで考えてシェア・グループで考えてシェア

学生は、与えられたトピックに対し、意見、答え、解決案などを考え、パートナーやグループで共有する。共有することで意見などを更にまとめ、更に大きなグループやクラス全体に発表する。

11. 作文についての口頭での相互評価

学生は、お互いの作文を評価する評価シートを記入した後、パートナーやグループに対し、評価結果の口頭説明をする。

分類5：すべてのカテゴリーに含まれる AL（4項目）

1. 学生が協力して行うプロジェクト

学生は、大きな課題を分担し、協力して作業する。課題完了後は、クラス全員の前で発表したり、また、レポート、エッセイ、ウェブサイト等として提出する。

2. 実地研修やシミュレーション

学生は、実際の状況で知識を応用する。例えば、経済学での知識をインターンシップ等で活用する。新しいことを教える手段として、講義の前にシミュレーションを行うこともできる。異文化体験のシミュレーションとして、例えば、日本の人口の半分以上が外国人という場面から、文化や適応について考える。

3. 地域コミュニティに根ざしたプロジェクト

学生は、個人又は他の学生と協力して、地域社会の中で、ボランティアなどのプロジェクトを行う。

4. 学生による評価基準の作成

課題、パフォーマンス、プロジェクトなどの評価基準を学生自身が作成する。

- 
- 事例 1 世界市民入門：「グローバルフードシステムに勝てるか？」 (p.08)
事例 2 経済学入門：「代替・補完商品プロジェクト」 (p.11)
事例 3 英語 (ESL) No.1：「講義＋モデル要約及び分析」 (p.14)
事例 4 英語 (ESL) No.2：「クイズ及びプレゼンテーション」 (p.17)

事例集パート I

パート I では、AL を主体としている国際教養学部の実際の授業での AL の事例を紹介します。国際教養学部 1 年次の必修科目である「世界市民入門」、また、科目の専門教員と英語の専門教員が共同で授業を行うチーム・ティーチングでの「経済学入門」のフィールド・トリップの様子も掲載しました。更に、2 年次における総合的な英語の授業からの事例も選出しました。パート I を読むことで、英語で授業を実施する本学の国際教養学部での AL の一端を垣間見ることができます。



アラン・シンプソン先生

スコットランド出身のアラン・シンプソンです。スコットランドで、電子電気工学の学士を取得し、その後、戦闘機のテストシステムエンジニアとして5年間働きました。それから企業チームビルディングとチャリティイベントのコーディネーターを務めてから、日本の民間の英会話学校、次に日本の大手エンジニアリング会社で、英語の教師とトレーナーを務めました。英語教授法の修士号を取得し、ビジネス英語に強い興味があり、研究しています。

実践例 1

アクティビティタイトル

グローバルフードシステムに勝てるか？

コース名

世界市民入門

この活動に最適な人数

30人

所要時間

90分

必要なもの

ハサミ、ペン、鉛筆、教材ビデオ

ALの手法

分類3：熟考する時間、アクティブ・リスニング

分類4：（インタラクティブ）グループワーク

分類5：実地研修やシミュレーション

目標とするCT能力

- ①重要な情報の特定
- ④情報の分類化
- ⑤多面的思考
- ⑥情報の活用

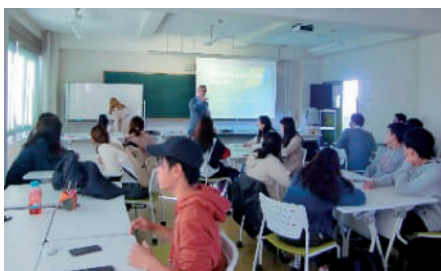
目標とする英語スキル

★★★	★★★	★★★	☆☆☆	★★★
Speaking	Listening	Reading	Writing	Vocabulary

学修成果

1. 学生は利益追求や協力し合うことを学び、チームワークや戦略的に問題に取り組めるようになる。
2. 学生は強力なコミュニケーションとリーダーシップの資質を伸ばすことができる。
3. 学生はグローバルフードシステムに関する知識を習得できる。
4. 学生は実世界の問題に取り組むクリティカル・シンキング能力が育成できる。

授業手順



01

学生は農業従事者、トレーダー、会社員などのグループに分けられる。各グループに異なる量の教材（鉛筆、ペン、はさみ、型紙、袋）を与える。

学生は世界のフードシステムシミュレーションゲームの説明動画を見る（教員の説明つき）。

02



03

各グループは各自の利益を最大化するための戦略を検討する。例えば、利益の最大化のために重視すべき事はコーンやコーヒーの生産なのか、販売と取引活動なのか等を検討する。

シーズンの始めに、学生は分け与えられた作物の紙（コーンやコーヒーなど）に色を付け、手持ちの資源（グループごとに異なる）をカットし作物の成長と収穫をシミュレートする。その後、作物を売って利益を出し、そうする事で税金を支払うことができる。

04



05

学生は政府による土地収奪、干ばつ、資源の喪失、企業投資による利用手段の拡大といった偶発的事象を伝えるニュース動画を見る。こうした事象は価格や資源を変化させ、各グループにさまざまな影響を与える可能性がある。

4つのシーズンが終わってから、学生は自分たちの成功度、それがなぜ、どのようにグローバルフードシステムと関連するのかを話し合う。

06



アクティビティの分析レポート

教員のコメント



クラス全体で「Simulation Activity (シミュレーション・アクティビティ)」をする意図は、課題を確認して理解し、環境変化に応じて、積極的に自分たちの戦略を開発し、その戦略を評価し改善する経験を生み出すことです。また、曖昧で不確実な状況の中で、意味と目的の明確化を試みる訓練にもなりました。これは学生が社員になったときに不可欠のスキルです。

学生は Active Listening Skills (アクティブ・リスニング・スキル) を使って、更新されたニュースを見て、私や他の学生たちと一緒にその意味を明確に理解しなければなりません。新しい語彙が出てきても、英語の動画字幕が補助になり、英語の速度も普通で、速すぎることはなかったです。また、たとえば政府役の学生が栽培地を表す紙の一部を収奪するといった状況変化があったときには、私がそれを分かりやすく説明してサポートしました。Interactive Group Work (インタラクティブ・グループ・ワーク) により、学生各自がチーム内で効果的に作業する際の、資材の生産、買い付け、買い取り、交渉、他のチームとの協力の割り振りを決めるという重要な経験をもたらしました。学生たちは、シミュレーションの始め、途中、終わりに、熟考することが要求されました。

スタート時点では Critical Thinking Skills (クリティカル・シンキング・スキル) を使って各自の戦略を開発し、ゲームの進行中は共に戦略を修正することになっていました。しかし、学生たちは実際にゲームが進むにつれて、各チームに平等の成功チャンスが与えられていないことに気が始めました。農業従事者はトレーダーや会社員や政府と同じくらいの資材や資金を持たされなかったのは、はるかに不利な状況に置かれました。ゲームが終わったときに、グローバルフードマーケットが平等性ではなく経済性に基いているという認識を得たことが、主な学習成果だったと思います。別の学習成果としては、意味の交渉や伝達、明確化、決定、確認を英語でしなければいけなかったことです。曖昧な要素が多い状況で何かをしなければならないという実際に起きる環境の中での授業活動でした。しかし、この授業は安心してコミュニケーションを図れる環境でもあったので、例え間違っても、すべきことに集中しながら、楽しく気楽に英語スキルを磨くことができました。

スタート時点では Critical Thinking Skills (クリティカル・シンキング・スキル) を使って各自の戦略を開発し、ゲームの進行中は共に戦略を修正することになっていました。しかし、学生たちは実際にゲームが進むにつれて、各チームに平等の成功チャンスが与えられていないことに気が始めました。農業従事者はトレーダーや会社員や政府と同じくらいの資材や資金を持たされなかったのは、はるかに不利な状況に置かれました。ゲームが終わったときに、グローバルフードマーケットが平等性ではなく経済性に基いているという認識を得たことが、主な学習成果だったと思います。別の学習成果としては、意味の交渉や伝達、明確化、決定、確認を英語でしなければいけなかったことです。曖昧な要素が多い状況で何かをしなければならないという実際に起きる環境の中での授業活動でした。しかし、この授業は安心してコミュニケーションを図れる環境でもあったので、例え間違っても、すべきことに集中しながら、楽しく気楽に英語スキルを磨くことができました。

学生のコメント

この授業では、農民、政府、企業などの仕事に分かれて、教室内で疑似的な職業体験をすることで、グローバル化社会のシステムの仕組みを学びました。先生の最初の説明で作業内容は分かったのですが、どのように授業が展開していくのか予測出来ませんでした。初めのうちは、自分達の仕事が他の職業にどのように関係するのか、外的環境によってどのような影響を受けるのか、そして、それに対してどのように対応すれば良いのか分かりませんでした。次第に自分達の立場、相手の立場を考えながら作業するようになり、最後のディスカッションでは各領域の感想を話し合うことで、グローバル社会における相互関係の概要を理解することが出来ました。先生が先に授業の目的を詳しく説明しなかったからこそ、この授業は面白く、自分で考えて気付くことが出来たのだと思います。英語力の観点では、職業の疑似体験を通して専門的な語彙も学び、干ばつなどの様々な出来事をニュース動画で聴くことで、リスニング力がつきました。また、私達は政府の役割だったので、他のグループと英語でコミュニケーションを取ることが多かったので、スピーキング力も上がったと思います。クリティカル・シンキングの観点では、自分や相手のメリット・デメリットを比較検討して、状況を見極め、最適な結論を導き出す訓練になり、実社会に出たときに役立つと思いました。





パーヴェウ・ムオドロフスキー先生

2000年にクラクフ経済大学経済学部で修士号、ヤギェウォ大学で博士号を修めました（共にポーランド）。2000年に修士号を取得した後、クラクフ経済大学助教授となり、19年間、大学教員としての経験を積みました。国際的な経験としては、過去19年間で、5カ国（ポーランド、ドイツ、日本、オマーン国、カザフスタン共和国）で講師を務めました。この国際経験により、現地の文化や習慣に適応し、根底にある社会的背景を理解することができ、多くの問題に対する視点を広げました。

現在の研究分野は、経済成長パターン、取引コストと経済成長、そして最近、Marshallianの一般均衡モデル（部分均衡ではない）における取引コストの問題にも取り組んでいます。

実践例 2

アクティビティタイトル

代替・補完商品プロジェクト

コース名

経済学入門

この活動に最適な人数

最低 2 人

所要時間

最低 3 時間

必要なもの

代替商品記入フォーム、補完商品記入フォーム



ティーム・ティーチング
アラン・シンプソン先生

AL の手法

分類 4：質問に対するグループワーク

分類 5：実地研修やシミュレーション

目標とする CT 能力

- ⑤多面的思考
- ⑦演繹的推論

目標とする英語スキル

☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆
Speaking	Listening	Reading	Writing	Vocabulary

学修成果

1. 学生は、商品を説明し、性質を理解し、店でその商品に近い代替商品と補完商品（その店で手に入るもの）を見つける力を伸ばすことができる。
2. 学生は、経済学を更に学ぶために必要な基本スキルを習得できる。
 - ・価格、正味重量、カロリーなどの特性で商品を適切に説明する方法を学ぶ。
 - ・補完商品をマッチさせる方法と、似通った特性を持つ代替商品を比較する方法を学び、価格と品質の最適バランスを見つける。
 - ・表を使って一次統計データを集める方法を学ぶ。
 - ・2人1組で、データの収集と管理を行う方法を学ぶ。
 - ・民間セクター事業体の操業を妨害しない社会的に受け入れられる方法で学外研究を進める方法を学ぶ。
 - ・指定された時間枠内で自分たちのプロジェクトを提供する時間管理を現場で体験し、習得する。

授業手順



01

学生は、学外学修中の課題についての説明を受け、2人1組になる。

2人1組で目的の商品とその補完商品を探す。

02

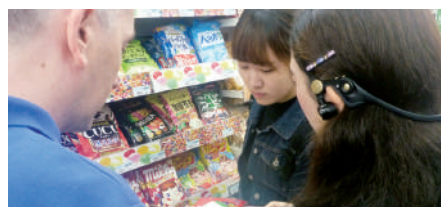


03

代替・補完商品フォームに記入する。商品名とその特性を記入してから、代替商品と補完商品を見つける。

学生は必要に応じて、引率の教員に質問したり、追加の説明、サポート、指導を受けたりすることができる。

04



05

このプロセスを繰り返し、様々な商品に対するデータを集めたら、完了。学生は最後に代替・補完商品フォームを教員に提出する。

次の授業

教員は、クラス全体に対して、活動についての全体的なコメントをする。

06



07

学生はグループ内の他の学生たちとデータを共有・比較し、商品の分類に使う個々の解釈について議論する。

学生は代替商品と補完商品の需要行動に関する理解を深めるために、自分で集めたデータを勉強する。

08





アクティビティの分析レポート

教員のコメント



このアクティビティにより、学生は、補完・代替商品の需要と、価格変動に対する動き及び対応についての経済学の基礎理論を理解することができます。学生は商品特性を英語で学ぶ必要があり、代替・補完商品フォームのすべての記録は手書きで英語を記入するので、英語力が向上します。異なる商品の関係を評価する過程で、必要な Critical Thinking (クリティカル・シンキング) を磨くことができます。補完商品や代替商品として店に展示されている商品を見つけたら、実生活に経済理論を適用するしかないからです。常に明快な解釈ができるとは限らないので、学生は自分の解釈を裏付けるために議論します。

このアクティビティを通じて、学外学修後の授業で議論する様々な商品の関係性についての多くのアイデアと解釈が生まれます。代替関係を誤解したり、不正確に捉えられているケースがよくあります。1人の学生が「炊飯器」を「掃除機」で代替できると主張したことは、それを示す面白い好例でした。そう言った誤った解釈を授業で扱うことで、経済学の他の関連性理論を再び説明し、このアクティビティで議論する全てのケースへの正しい解決策を提示する実際の事例を検討します。このように、学生は自分が処理したデータベース記録を手に、学修テーマを一つ一つ反復します。こうしたプロジェクトデザインによって、学生たちは完全かつ適切な理解に必要なすべての段階を経て、実生活に理論を適用することができるのです。

学生のコメント

この授業では、需要と供給と価格の関係について学びました。事前の授業で需要について学んだ後、学外学修で、ホームセンターに行き、自分で代替商品と補完商品等の調査を行い、次の授業では調査結果を基に需要曲線を作り、グループでディスカッションをしました。先生が与える例やデータではなく、自分の身近な商品を使って、自分が調べたデータを基に分析したことで、需要と供給のしくみをより分かり易く学ぶことが出来ました。

英語力の観点では、学外学修中に先生からの指示を英語で理解することでリスニング力を高めることができます。学外学修前の授業で、ビジネスシーンで使う語彙を習っていたので、学外学修で実際にそれらの語彙を使用したのも、語彙が定着しました。また、学外学修後の授業では、グループで収集したデータを共有・比較することで、スピーキング力を向上させる機会がありました。

クリティカル・シンキング能力の観点では、今回の学外学修を通じて、代替商品と補完商品を実際に見て理解することができ、一つの商品の売上が他の商品に与える影響などの実際の経済状況を論理的に理解する能力がついたと思います。また、経済の動きに応じた商品の入れ替えや経済市場を推測する能力の向上にも役立った学習活動でした。





カタリーナ・モーク先生

私のニックネームは Trine で、1992 年から英語を教えています。大学院に入る前に 1 年近くコスタリカに滞在し、その時に英語を教え始めました。それから、故郷であるカナダに戻り、大学院に通いながら、モントリオールで、移民、難民、フランス語を話すカナダ人に英語を教えました。その後、交換留学プログラムで日本に来て、中学校で英語を教え、愛知県で 1 年間日本語を勉強し、東京の会社でビジネス英語を教えました。それ以来、3 つの都道府県の 12 以上の学術機関で働きました。私の研究対象は、学習戦略、教育技術、異文化間コミュニケーションなどです。現在の趣味はブログと YouTube と旅行です。

実践例 3

アクティビティタイトル

講義＋モデル要約及び分析

コース名

英語 (ESL)

この活動に最適な人数

ペアが作れる偶数の人数が望ましい

所要時間

90 分

必要なもの

本、要約ハンドアウト、ペン、紙、辞書

AL の手法

分類 1：言い換えや要約の記述、ジャーナル・ライティング

分類 3：熟考する時間、アクティブ・リスニング、読解

分類 4：対話式講義、自由討論、口頭での言い換えや要約

目標とする CT 能力

- ①重要な情報の特定
- ④情報の分類化
- ⑦演繹的推論

目標とする英語スキル

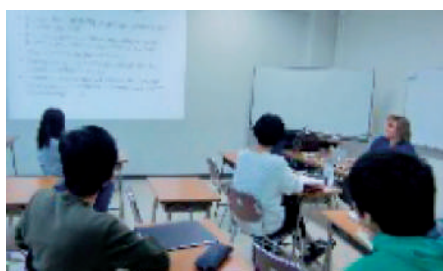


学修成果

学生は、以下の活動に関連した学修効果を得ることができます。

1. 意味をパートナーと話し合う。
2. 相手が聞いたり読んだりすることを理解し、まとめる。
3. 読んだことの中で、重要な点を特定する。
4. 学んだことを口頭でわかりやすく言い換える。
5. 積極的に相手の話を聞き、相手が言い換えたことを熟考する。
6. 読んだことを言い換えて書く。

授業手順



01

教員はその日に扱う章を説明するスライドを使って、講義する。学生は聴きながらメモを取る。

学生にその章の要約と分析のモデルを資料として配る。

02



03

学生はペアを組む（授業毎にペアを変える）。学生たちは配布された要約資料中にあるどれかひとつのパラグラフと一緒に読み上げ、（相手や教員と相談して、必要なら辞書も使って）意味を解読し、黙読で内容を見直してから、内容を言い換えて口頭で伝える練習をする。

ペアでじゃんけんをして、勝った学生が別のペアで負けた学生の席に移り、配布資料を見ないでパラグラフを口頭で言い換えて伝える。すべてのモデル要約を扱うまで、言い換えセッションごとにペアを組み変えて、3と4を繰り返す。

04

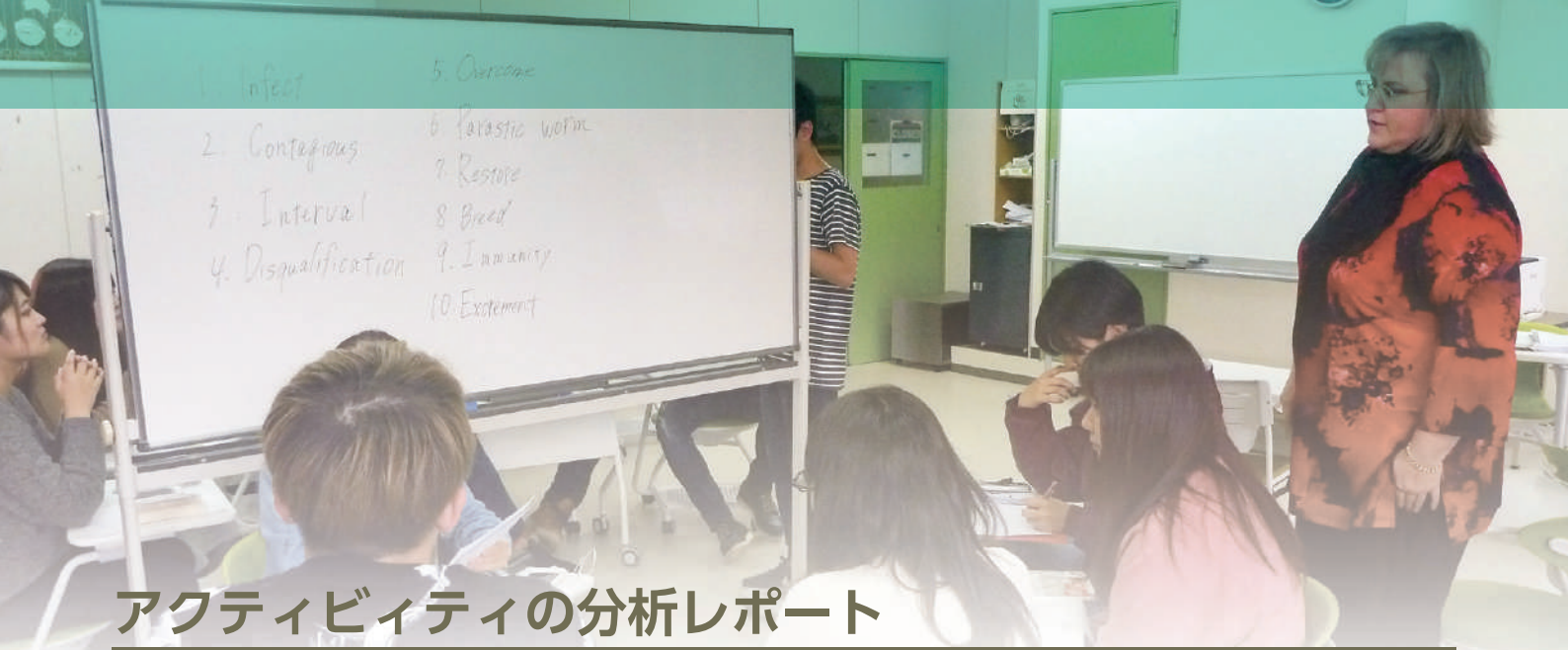


05

学生は分析部分を黙読してから、配布資料を教員に返す。学生は、配布資料なしで、各自の要約と分析をジャーナルに書き、それが終わってから配布資料を再び受け取る。

【 課 題 】

1. 学生全員が各自、章の要約と分析を作成する（授業で扱ったことを思い出さずに、自分の力で作成する）。
2. 事前に選ばれたチェアパーソンは、対話型のプレゼンテーションを準備する。チェアパーソンは語彙を教え、自分が作った要約を伝え、対話をリードする。チェアパーソンはレポートも作らなければならない。レポートには自分の要約から選んだ 10 個の語彙、その定義と例文、自分の要約に基づいて作った内容に関する 4 つの質問（と回答）、議論のための質問を 2 つ書く。授業の前に、そのレポートを教員に e メールで送っておく。



アクティビティの分析レポート

教員のコメント



学生は、このアクティビティの宿題に加えて、4つの言語スキル（読む、書く、聞く、話す）のすべてに取り組みます。レッスンごとに新しい語彙が現れるので、授業に付いて行くには積極的に意味を理解しなければなりません。課題をこなし、絶えず変わる役割とアクティビティに対応するため、学生は休む暇なく勉強します。授業内容を理解しないと課題ができないので、学生は授業での目の前の作業に集中しないといけません。要約モデルを学生に提示することで、どのくらいの文章の長さや質が要求されているかを示すことができます。この活動は、学生がもっと分量のある母国語の資料を要約するときにも役立ちます。重要ポイントの特定、要約や分析の構造、（何らかの結論があるときは）結論の引き出し方など、要約と分析の書き方の手本を学生たちに見せることができます。学生は事例と体験を通して、授業内容と英語の両方を学びます。学生に渡したモデル文書は、学生たちがコピーするのを防ぐために授業の終わりに回収します。だから、重要なポイントを忘れても、自分で思い出さなければなりません。学生が各自のレポートを書き終えたら、モデル文書を彼らに返し、自分のレポートとモデル文書を比較して、ルーブリックで評価させます。こうしたルーブリック自己評価の結果に対して、教員からの評価も受け、成績評価にも反映されるので、学生は自己評価の結果の正当性を証明する必要があります。

学生のコメント

この授業では、様々なジャンルのアクティビティを行うので、英語力はもとより、広範な知識を習得できると思います。最初に先生がある程度課題の説明をするので、英語で内容をしっかり理解できます。ここでは、後からのアクティビティで使う知識や英語をインプットする機会になります。そして、その後のサマリーとアナリシスのリーディングアクティビティが最終的に自分の英語を使ったアウトプットの機会になっていると感じます。また、アクティビティのペアワークやディスカッションの中でコミュニケーション能力も伸ばすことができると思います。ただ内容を理解するのではなく、「自分の英語」を使って内容を理解する練習を積むことができます。

英語力の観点では、「読む、聞く、要約する、話す、発表する、話し合う」を実施するので、この一連の英語に関するアクティビティは、総合的な英語力を身に付けることへと繋がります。クリティカル・シンキングの観点では、3つの作業：サマリー・アナリシスを読み、内容を論理的に整理して理解する力、自分の英語を使って要約・分析する力、次回のチェアパーソンで Discussion Question を作る際に内容を多面的に考える力が必要になるところで、クリティカル・シンキング能力を養うことができます。



初木 那奈美さん
【国際教養学部2年】



カタリーナ・モーク先生

→ 実践例3の授業の続き

実践例 4

アクティビティタイトル

クイズ及びプレゼンテーション

コース名

英語 (ESL)

この活動に最適な人数

4～6人の小グループを複数作れる人数

所要時間

90分

必要なもの

ホワイトボード、ルーブリック評価シート

ALの手法

分類1：自己評価

分類2：プレゼンテーション、ピア・ティーチング

分類3：アクティブ・リスニング

分類4：自由討論、グループで考えてシェア

目標とするCT能力

- ④情報の分類化
- ⑤多面的思考
- ⑦演繹的推論

目標とする英語スキル

★★★	★★★	★★☆	★★☆	★★★
Speaking	Listening	Reading	Writing	Vocabulary

学修成果

学生は、以下の活動に関連した学修効果を得ることができます。

1. 重要な語彙を他の学生たちに発表し、教える。
2. 前回の授業で扱った内容を要約し、分析したレポートを他の少グループの前で発表する。
3. ディスカッションのチェアパーソンを務める。
4. オンラインアンケートを使い、チェアパーソンのパフォーマンスを評価する。
5. 自分が書いたレポートをルーブリック評価表で自己評価する

授業手順



01

学生は前の授業の内容に関する選択式のミニクイズをする。

学生を小グループに分け、各グループにホワイトボードを与え、チェアパーソンが前に出る。

02



03

チェアパーソンは 20 ～ 30 分ほどのプレゼンテーションを行う。

- ・自分の要約と分析から選んだ語彙(定義と例文を含む)を学生同士で教え合うピアティーチングを行う。聞き手側の学生も、自分の例文をシェアするのが望ましい。
- ・チェアパーソンは聞き手からコメントや質問を受けながら、自分の要約と分析を自分なりに言い換えて発表する。台本なしで発表できるのが望ましい。



チェアパーソンは聞き手の理解を確認する質問を 4 つ出して、発表された内容を復習させる。積極的に回答した聞き手は、ステッカーの形でポイントを受け取るゲーム形式になっている。

- ・チェアパーソンは、内容に関連のある 2 つのディスカッション用の台詞を提示して、グループにディスカッションを行わせる。

04



05

聞き手は、教員が準備した評価質問を使い、Webベースの学生回答システムを利用して、匿名でチェアパーソンを評価する。このフィードバックは授業後に、eメールでチェアパーソンに送られる。

チェアパーソン役の学生は、別のグループに移り、プロセス全体を繰り返す。大抵は、3回のローテーションを行う時間がある。

06



【 課 題 】

各章の要約／分析モデルを学生に戻す。学生たちはループリックを使って自分の作業をモデルと比較し、自分の作業を評価する。もし学生たちがまだ本の各章を読んでいない場合は、次の授業に備えて、母国語で本の各章を読む。

アクティビティの分析レポート

教員のコメント



この 2 回目の授業では、指定されたチェアパーソンが、自分が学んだことを発表し、授業内容に関連している新しい語彙や重要な語彙を教えます。前回の授業で扱った章に関連のある各アクティビティが足場となり、学生のプレゼンテーションでレッスンが完結します。学生たちはまず、章を母国語で読んでから、教員が英語で伝えるその章の要約を聞きます。次に、英語で章の要約モデルを読み、それを口頭で言い換えてから、自分の要約と分析を書きます。最後に、自分が学んだことを伝え合います。プレゼンテーションの最中、聞き手の学生はチェアパーソンに対して、重要なポイントを分かりやすく説明するよう対話し、プレゼンテーション中にテーマを深く議論します。学生は教員の意見よりも、他の学生の意見を気にする傾向があるので、定期的にプレゼンテーションの場を設けることで、学生は緊張感の中、授業に取り組みます。また、聞き手の数が少ないので、学生は伸び伸びと取り組みます。授業でチェアパーソンを決めて、プレゼンテーションを 3 回以上、グループを変えて繰り返すと、チェアパーソンはプレゼンテーションスキルを向上させると同時に、様々な聞き手に適応するスキルを身に付けることができます。学生は学期中に、本の 4 つユニットから 1 章ずつ選んで発表します。授業は週に 4 回あるので、一連の主要な課題を十分にこなすことができます。ほとんどの授業は、今回紹介したアクティビティの進め方となります。各ユニットの最後に、他のアクティビティを使って、学生の学修を復習し、総括します。例えば、この本に関連のある National Geographic のビデオシリーズや、教員が 4 つ各ユニットを要約して作った動画に関連したリスニング・アクティビティ、ディスカッション材料として使われるテーマに関連した Youtube コンテンツ、中間テストや最終テストとして、事前に学生にエッセイ問題を与えて準備させ、後に授業で教員と一緒に検討すること等があります。

学生のコメント

この授業で取り扱うリーディングの内容は多岐に渡り、授業の課題を終わらせるのにも時間がかかります。まず、リーディングの課題を読んだ後に多くの疑問が沸くので、分からないことを調べます。今回の授業では、クラスメイトにリーディングで扱った単語の説明や内容の質問をするチェアパーソンを務めたので、読んだ内容を文書で要約・分析し、それを基に質問を作りましたが、非常に大変でした。しかし、これらの課題と授業に取り組むことで、総合的な英語力はもちろんのこと、幅広い知識を得ることができます。要約と分析を発表することで、聞き手に分かりやすく話す練習になりますし、聞き手にプレゼンテーションスキルを評価されることで、自分の不足点の改善にもつながるので良いと思います。

英語力の観点では、大量のリーディングとリスニングをこなさなければならないので、語彙力、リーディング力、リスニング力がつくと思います。要約・分析した内容を書き、最後にジャーナルを書くので、ライティング力もつきます。要約・分析した内容を暗記して英語で発表し、ディスカッションをすることで、スピーキング力も上がると思います。クリティカル・シンキングの観点では、要約の際、論理的に情報を整理して分析しますし、チェアパーソンになると Discussion question を自分で作りますので、考える力がようになります。Discussion Question ではグループメンバーから多様な意見が聞けるので、柔軟な発想力を鍛えるのに役立ちます。このように、この授業では、英語の様々な技能が鍛えられるほか、思考力やプレゼンテーションスキルも上がるので、非常に多くのことを学び習得しています。



Chia Jan Chiu さん
【国際教育学部2年】

綾方千恵さん
【国際教育学部2年】



事例5 英語 2 No.1 : 「バック・トゥー・ボード語彙クイズ」 (p.22)

事例6 アカデミック・ライティング 2 :
「国連の持続可能な開発目標 (U.N.S.D.G.) 語彙マッチングレース」 (p.25)

事例7 英語 2 No.2 : 「会話ストラテジーレビュー」 (p.30)

事例集パートⅡ

パートⅡでは、普通の授業で使用している AL の手法を模擬授業の形で実施し、受講した学生が学修成果の観点から授業評価を行い、その学修効果の検証をする取組を実験的に実施しました。英語での授業なので、英語が理解出来ないと正確な授業評価には繋がりません。そこで、TOEIC や成績などで一定の条件を満たした学生を集め、また、評価項目及び観点を調整する数回の事前オリエンテーションを実施することで、授業及び評価方法を理解した学生が AL の評価を実施しました。評価項目には、英語スキル（スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング、ボキャブラリー）の他に、学力などを参考に、思考力、チームワーク、リーダーシップ、知識、主体性、他者とのコミュニケーション力等の汎用的能力も含め、3 段階（0.5 刻み）で評価しました。パートⅡに含まれている評価結果は、平均 2.5 点以上（4 人平均）の評価結果を得た学修成果の項目です。



エレン・ヘッド先生

イギリス出身のエレン・ヘッドです。長年、英語教師をしてきました。スコットランドのセント・アンドルーズ大学で英語とラテン語の修士号を取得し、ギリシャで英語教師を務め、その後、ロンドンで学校教育資格コースを取り、2000 年に来日して、関西の大学で教鞭を取りました。日本の教育をより深く理解するために、2003 年から 2007 年にかけて日本の言語と社会を専攻して修士号を取得しました。研究としては、自己学習に責任を負うことを学生に奨励する方法を見つけることに興味を持っています。

実践例 5

アクティビティタイトル

Back-to-Board (バック・トゥー・ボード) 語彙クイズ

コース名

英語 2

この活動に最適な人数

20 人

所要時間

5-10 分

必要なもの

語彙リストのハンドアウト

(前回の授業で扱った語彙や学生が選んだ語彙でも良い)

AL の手法

分類 2 : ピア・ティーチング

分類 4 : 質問に対するグループワーク

目標とする CT 能力

英語の語彙のアクティビティなので、該当なし

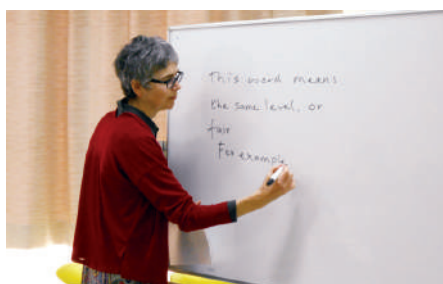
目標とする英語スキル



学修成果

1. このアクティビティは語彙クイズの前に実施すると効果的で、学生はターゲット語彙をより深く学習することができる。
2. 学生は、「Please could you repeat that? (繰り返してください)」や「How do you spell that? (どう綴りますか)」などの、授業でよく使う言葉を習得できる。
3. このアクティビティを通じて、学生はクイズを出し合うことに慣れるようになり、授業外でも、同様のアクティビティで語彙力を高められる。

授業手順



01

教員はホワイトボード上に、学生が勉強してきた語彙のヒントを書く。ヒントは、その単語に関する情報を含めます。簡単な例：「果物の一種。赤くて、カリカリしている。初めの文字は A。2 つの音節がある」

学生はペア（学生 A と学生 B）を作る。A はホワイトボードを見ることができるが、B はホワイトボードを見ることができない位置に立つか、座る。B は A の顔を見て、A の声を聞く。

02



03

A は B にヒントを読み上げ、B は単語を推測する。

教員は The word is...apple（その単語は…リンゴです）」という答えを書き、必要に応じて、各ペアの A にそれぞれ、「That' s right, well done（正解、素晴らしい）」、「Try again（やり直して）」、「Do you want me to tell you the answer?（答えを教えてください）」と言うように指示する。

04



05

1 つの単語が終わったら、教員は新しい単語のヒントを書き、これを繰り返す。教員は各ペアのやり取りをよく聞き、英語を使っていることと、適切に対応していることを確認する。

3 語から 4 語ごとに A と B の役割を交代させる。このクイズに慣れると、学生は教員がホワイトボードにヒントを書き終える前に、自分達でヒントを推測して読み上げることができる。

06



アクティビティの分析レポート

教員のコメント



このアクティビティは、簡単なウォームアップと語彙のおさらいを兼ねています。また、学習者の主体性と自律性を育てる優れた方法でもあると思います（Reinders、2010、48）。授業を始めるときに、このアクティビティを行うと効果的です。学生は相手とコミュニケーションを取る時に、何を話すかをじっくり考える必要がありません。このアクティビティの焦点は語彙知識にあります。と同時に、学生はヒントを読み上げるときに分かりやすく、はっきりと伝えなければなりません。この「ピアクイズ」を習得した学生は授業外でもこのクイズができて、自律性が向上します。本学のアクティブ・ラーニングの分類の観点からすれば、これは「外向き：他者とともに行う」の「即興型：その場で行う」です。教員はクラスや最近の授業内容に合わせて、ヒントや定義の種類、問題のレベルを変えることが出来ます。これを定期的に行うと、学生は音節の数や単語の韻といった音韻のヒントによって、より上手に単語にたどり着くようになります。関係代名詞の使用など、定義を書く上での特定の言語的な特徴を学べます。このアクティビティを事前に準備する時は、学生に定義や例文を書かせ、それを口頭か文書によるピアクイズ方式で実施することもできます。

参考文献：

Reinders, H. (2010) Towards a classroom pedagogy for learner autonomy: A Framework of Independent Language Learning Skills retrieved from <https://ro.ecu.edu.au/cgi/viewcontent.cgi?article=1454&context=ajtez>

学生評価 ☆以下の項目は、学生評価が 2.5 以上（3 段階評価）で、学生がこのアクティビティに対して有効だと評価した項目です。

英語スキル

スピーキング …………… ☆
リスニング …………… ☆

汎用的能力

コミュニケーション力 …………… ☆
チームワーク …………… ☆

その他

アクティビティの楽しさ …………… ☆

学生のコメント

このアクティビティでは、学生は単語学習をしました。二人一組になり、先生がボードに書いたヒントを一人の学生が伝えて、もう一人がその単語を当てるといいます。もちろんヒントも単語も英語なので、ただ一言に単語学習といってもその内容はスピーキング、リスニング、リーディングを含めたものになります。伝える側の学生は相手が理解できるように発音に気を付けながらヒントを読み上げる必要があります。そして、解答する側の学生はそのヒントを聞き、答えである単語は何であるかを考えていきます。

この学習ではペアを組むということもあり、自分は英語力だけではなくコミュニケーション能力とチームワーク力が重要であると感じました。他のグループよりも先に答えるには、ヒントを早く読む必要があります。しかし、それで相手が理解しなければ本末転倒です。急ぐ中で相手が理解できるようにも気を遣う、こういう基礎的能力もこのアクティビティでは重要であると思います。

このように、このアクティビティでは単語以外の能力も向上させることができました。更に言うと、単語学習においては耳と口を使うのも非常に重要なので、このアクティビティは単語学習においても基礎的能力においても効果的であり、短時間で済むという点からも授業の導入などに最適であると思いました。



宮本 啓太郎さん
【国際教養学部3年】



エレン・ヘッド先生

実践例 6

アクティビティタイトル

国連の持続可能な開発目標（U.N.S.D.G.）語彙マッチングレース

コース名

アカデミック・ライティング 2

この活動に最適な人数

最低 6 人

所要時間

30-40 分

必要なもの

U.N.S.D.G. のマトリックスは、こちらの URL で入手可能
http://cdn.worldslargestlesson.globalgoals.org/2016/07/150902B_TheGlobalGoals_Logo_and_Icons_Newversion_edited_11.09.15ai-2.jpg

AL の手法

分類 2 : ピア・ティーチング

分類 4 : 質問に対するグループワーク

目標とする CT 能力

- ④情報の分類化
- ⑥情報の活用

目標とする英語スキル



学修成果

1. 学生は、国連の持続可能な開発目標に関する知識を得ることができる。
2. 学生は、特定の具体例とそれに対応する大きな分類を関連付ける思考力が身につく。
3. このアクティビティで扱う項目は、世界市民、政治学や経済学などで学習する項目と関連付けることができる。
4. 学生は、世界市民としての自分の立場や国連の開発目標と日本の関連性について考える思考力が身につく。

授業手順



01

教員は学生に U.N. S.D.G. のロゴを見せ、「sustainable development goals (持続可能な開発目標 以下 SDG と呼ぶ)」の略語であることを説明する。学生に「sustainable (持続可能な)」の定義を問い、持続可能な開発やそうではない開発の例を挙げさせる。

教員は学生に、持続可能な 17 の開発目標が書かれたカードセットを見せる。カードにはカラフルなロゴがついている。

02



03

学生を 3 人から 4 人の 1 組のグループに分ける。各グループにカードセットを与え、カードを使ってマッチング・アクティビティを行わせる。各持続可能な開発の目標に、それにマッチする 1 つか 2 つの事例がある。

教員は、教室の中の学生が座っている場所から離れた様々な場所に SDG プログラムに関する引用文が記載されている紙片を置く。

04



05

マッチング・レースを始める。学生は A、B、C、D の役を決め、各グループの A は走って紙片を取り、グループに持ち帰って大きな声で読み上げる。B と C と D はそれを聞いて、その紙片に書かれている引用文に最もマッチする SDG カードと組み合わせる。次に B が走る番になり、A は座る。

学生達は、紙片とすべての目標がマッチするか、制限時間がくるまで、このアクティビティを続ける。20 分ほどでアクティビティを完了する。学生達に、1 ページ目に事例、2 ページ目に目標名を記載したマスターシートを渡して、それに記入させるのも良い。

06



07

教員は学生の活動をサポートする。学生のレベルによっては、ホワイトボードに目標を書き、目標を読むときにそれぞれの目標の引用文を掲げるよう指導する必要もある。フォローアップ・アクティビティ：国連の持続可能な開発目標を説明した動画の一つを学生に見せる。また、どの目標が日本にとって最も重要かを 10 分間で学生に書かせる。「SDGs を学ぶ一週間 “The World’s Largest Lesson”」に参加させる。学生達はこの国際的なイベントで、Flipgrid や skype や twitter を介して国連の持続可能な開発目標に関連するテーマでプレゼンテーションを行う。

アクティビティの分析レポート

教員のコメント



このアクティビティは、学生が複数教科にまたがるテーマを考えさせるものです。地球温暖化などの現象を学ぶとき、学生は特定の時間と場所での地球温暖化の影響を想像できないかもしれません。この活動目標にマッチする事例を考えることで、学生は国連の持続可能な開発目標の17カテゴリとの関連で事例を熟考できます。Academic Writing（アカデミック・ライティング）の授業では、学生は、事例を容易に英語で書けるようになる必要があります。もし学生が抽象的な言葉を特定の状況と関連させることができるようになれば、Academic Reading（アカデミック・リーディング）としても、内容を容易に記憶できることになります。

教員の役割は、情報提供者と進行役を兼ねています。このアクティビティは語彙の点では難しいかもしれませんが、学生は世界を知りたいがっているので、学生は集中して取り組みます。児童労働のyoutube動画を見せるとか、世界の子供達の生活状況のポスターを貼るといったプロジェクト作業とも上手くつながります。”The World’s Largest Lesson”は、地域問題や国際問題の解決に力を合わせて取り組む若者を集める国連主導のプロジェクトです。活動ツールとしては、希望に満ちたストーリー等の役に立つ情報を提供する動画やソーシャルメディアフォーラムなどがあります。このフォーラムは、学生が国連目標関連に対する意見を共有し、世界問題に対する自分達の解決策を発表し、シェアする場となっています。学生は、他国の学生とつながることで目的意識を持ち、話を聞いてもらえます。それが、文化的に異なる視点に触れ、自分の文化とは異なる文化に住む人々に心を開くことに役に立ちます。このアクティビティだけでも、授業として成り立ちます。

学生評価 ☆3の以下の項目は、学生評価が2.5以上（3段階評価）で、学生がこのアクティビティに対して有効だと評価した項目です。

英語スキル

スピーキング ☆3
リスニング ☆3
ボキャブラリー ☆3

汎用的能力

コミュニケーション力 ☆3
思考力 ☆3
チームワーク ☆3
知識 ☆3
主体性 ☆3

その他

アクティビティの楽しさ ☆3
総合評価 ☆3

学生のコメント

このアクティビティでは、グローバルな問題に着目した持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）についての学習でした。内容としては、持続可能な開発目標が書かれたカードとそれに関連した単語をマッチングさせるグループ競争のゲームをしました。ルールは、三人ずつのグループに分かれ、早くカードをマッチングさせたチームが勝つというものでした。初めに先生と持続可能な開発目標が書かれたカードを読み、単語の意味の確認を行いました。確認が終わった後は早速ゲームが開始されました。メンバーの一人が走ってカードを取りに行き、他のメンバーに対して読み上げ、意味が通るカードをマッチングさせました。最後に、先生と答え合わせ、そして内容理解を行いました。ここでは、Speaking, Listening, Readingの三つの統合的な学習、そして新出語句の学習も出来ました。ゲームを進めていく上で、持続可能な開発目標に関する環境問題や貧困問題が多く出題されたので、汎用的技能である論理的思考力・問題解決力が身に着きました。また、グループ活動をするときに必要なコミュニケーション能力・チームワーク力が身に着きました。このアクティビティは、英語の学習だけではなく環境問題や貧困問題などのグローバルな問題に関する知識の学習もでき、学生が主体的に学ぶアクティビティなので効果的な学習方法だと思います。



入佐 加寿真さん
【国際教養学部3年】

United Nations Goals for Sustainable Development

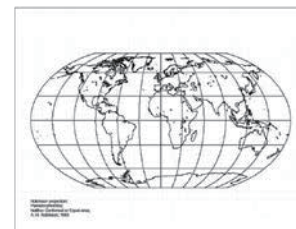
In 2000 the United Nations created goals for world development.

The goals were updated in 2016.

Watch the video about it on-line here: <https://vimeo.com/181766755>

Or with Japanese subtitles here: <https://vimeo.com/182065124>

Which goals do you think are most important for Japan?



Try matching the “quotes” on the strips of paper with the goals. Some of them are related to more than one goal.

Quotes	Goals
1. I do not have enough food to feed my baby due to the war in my country. 2. I had to leave school when I was 10 years old and work in the fields 3. The ocean around my home is full of plastic. 4. The fish are dying in the river near my home due to pollution from the local smartphone factory. 5. I have a cough because of the air pollution in my city. 6. I cannot get a top management job because the top managers are all men and it is more difficult for a woman. 7. We used to see animals in the forest but there are no animals now. 8. Every night I hear army helicopters flying around and I worry whether it is safe to go out tomorrow. 9. I invented a windmill which can make electrical power from the wind. 10. I am a teacher and I got a scholarship to study education in a country far from my own country. 11. I went to another country to build houses after the flood and wind destroyed houses there. 12. I want to study engineering and learn how to build wells for fresh water in my country. 13. In my country some lawyers were put in prison because they disagree with the government. 14. When I buy my lunch, it has a lot of plastic packaging. I don't want to but I have to buy it because my Mum and I don't have time to make it. 15. My grandparents were made to leave their farm because the neighbouring country said the land was theirs. 16. We need to build new roads because the traffic in my city is really slow.	

17. I am going to clean up the beach once a month in Aoshima because it is fun.
18. I want to study business and work in an international company but future I might not get such a high salary as my brothers because I am a girl.
19. I want to design products which are eco-friendly so I work as a designer and sell my products on the internet.
20. My country has many immigrants from other countries and they are not treated fairly so I want to help. Now I study Arabic at college.
21. I try to save electricity by charging my cell phone at school instead of at home.
22. I bought a solar powered charger for my phone.

Global Goals – UN 2030 Sustainable Development Goals

Goal 1: No poverty	Goal 9: Innovation and infrastructure (New stuff)
Goal 2: No hunger	Goal 10: Reduced inequalities (Fair & equal)
Goal 3: Good health	Goal 11: Sustainable cities and communities
Goal 4: Quality education	Goal 12: Responsible consumption (shopping)
Goal 5: Gender equality	Goal 13: Climate action (less CO2)
Goal 6: Clean water and sanitation (toilets)	Goal 14: Life below water (Clean sea and rivers)
Goal 7: Renewable energy	Goal 15: Life on land (endangered animals/plant)
Goal 8: Good jobs and economic growth	Goal 16: Peace and justice (Stop wars! Follow laws)
	Goal 17: Partnerships for the Goals



エレン・ヘッド先生

実践例 7

アクティビティタイトル

会話ストラテジーレビュー

コース名

英語 2

この活動に最適な人数

最低 3 人

所要時間

7-20 分

必要なもの

ストラテジー観察シート及び会話ストラテジーレビューのシート

AL の手法

分類 2：ピア・ティーチング

分類 4：質問に対するグループワーク

目標とする CT 能力

- ①重要な情報の特定
- ④情報の分類化

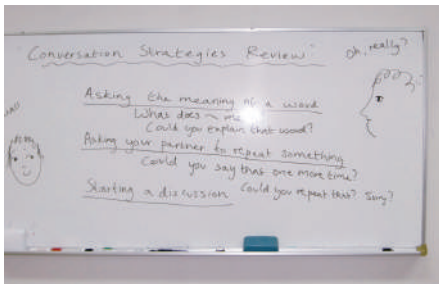
目標とする英語スキル



学修成果

1. 学生は会話ストラテジーを使うタイミングを学習できる。
2. 学生は会話ストラテジーを多く使えるようになる。

授業手順



01

教員はホワイトボードに「Asking your partner to repeat something (もう一度言ってと相手に依頼する)」、「Starting a discussion (会話開始)」と書く。

教員は学生が 1 の言葉を使えるようなフレーズを言う。例：単語の意味を尋ねる：「What does this word mean? (この単語の意味は何ですか)」、「Could you tell me the meaning of this word? (この単語の意味を教えてください)」

02



03

教員は学生達に「ストラテジーレビューワークシート」を配布し、学生は 3 人 1 組で書き込んでいく。5～10 分後、教員が回答を確認し、ホワイトボードに書き込む。

教員は学生達にこう伝える。「Please set your cell phone timer for 5 minutes. You are going to try to keep the conversation going for 5 minutes. One person will be the observer. (携帯電話のタイマーを 5 分にセットしなさい。会話を 5 分間続けるようにして下さい。1 人はオブザーバーです。)」

04



05

教員は各グループの「オブザーバー」役に「観察シート」を渡す。オブザーバーは、学生が会話ストラテジーを使うたびにシートにチェックを入れる。

各グループはテーマを選んで会話を始める。約 6 分後に教員は、オブザーバーに対して、学生が使ったストラテジーをフィードバックするよう指示する。

教員は、学生に役割を変えて、同じことを繰り返すように指示する。学生はテーマを変えるか、同じテーマを続けるかを決めることができる。

06



アクティビティの分析レポート

教員のコメント



会話ストラテジーの授業は、文法を勉強してきたけれど、あまり会話に慣れていない学生に役立ちます。本学では、最初の学期で会話ストラテジーに集中的に取り組み、学生に会話テストを受けさせ、どのようにストラテジーを使っているかを評価します。このアクティビティでは、互いがトレーナー役になることができるので、ストラテジーを使う意識が高まります。1人をオブザーバー役にするので、参加者間のバランスや互いに励まし合うフレーズを使うといった高次の会話の側面にも気を配るようになります。学生は、自分の長所と短所を診断したフィードバックをもらい、改善案を選びます。このアクティビティは、1年生の授業で使われるので、1年生が英語で会話を続けるのは大変かもしれませんが、ストラテジーレビューシートを見れば、会話を続けるためにできることがある程度わかります。例えばフォローアップの質問をしたり、新しいテーマを取り入れたりすればいいのです。英語のレベルの違う学生が混じっているグループは、互いに学ぶ良いチャンスです。会話での役割を交代することで理解も深まり、「問いかけ」、「返事」、「リアクション」といった会話のパターンを学ぶことができます。会話を暗記する代わりに、この方法を使えばいいのです。この方法を使うことで、学生達はスピーキング・テストや実際の会話の中で、会話の基礎固めをするために必要な技能を習得し、理解を深めることができます。

Washburn と Christianson (1995) は、ストラテジーを実践する際に向いている他のアクティビティの一部を以下の記事に記載しています。

Washburn, N., and Christianson, K. Teaching Conversation Strategies Through Pair-Taping, retrieved from <http://iteslj.org/Techniques/Christianson-PairTaping.html>

学生評価 ☆2.5以下の項目は、学生評価が2.5以上（3段階評価）で、学生がこのアクティビティに対して有効だと評価した項目です。

英語スキル

スピーキング ☆2.5
リスニング ☆2.5

汎用的能力

コミュニケーション力 ☆2.5
主体性 ☆2.5

その他

アクティビティの楽しさ ☆2.5
総合評価 ☆2.5

学生のコメント

このアクティビティでは、まず初めにグループの中から、ディスカッサント2人とオブザーバー（観察役）を決めます。そして次に、会話において大切ないくつかのフレーズを学習します。例えば、会話をスタートする際には「May I start?」や「Let's begin!」会話の途中では「How about you?」や「Nice idea!」など、会話を成立させるうえで重要なフレーズをみんなで学習します。そしてこれらのフレーズを元に、クラスメイトと先生から決められたお題について自由に会話をします。グループ内の二人が会話をしている間、オブザーバーは二人がどんなフレーズを用いたのか観察をし、メモをします。そして最後にオブザーバーからフィードバックをしてもらいます。3分～5分程度、じっくりと会話をするので英語でのコミュニケーション力を大いに身につけることができ、相手の話をしっかりと聞くことによりリスニング力も身につけることができます。また、初めに会話において大切なフレーズを学ぶことができるため、会話をスムーズに進めることができ、より会話を盛り上げることができます。このアクティビティの最後には、オブザーバーからフィードバックをもらうことができるため、自分に何が足りなかったのか、改善点を見つけることができるため、今後の授業に役立てることができます。



藤山 佳菜子さん
[国際教養学部3年]

English 1 Conversation Strategies Activity

1. Think of a phrase/question/word you can use to do the following:

Find out if your group is ready	
Sustain the conversation/ keep the conversation going	
Ask about the meaning of a word	
Show your interest	
Show your surprise	
Show your sympathy	
Check that your partner understands	
Check that you understand	
Tell your partner it is her turn/his turn	
Conclude the conversation	

2. A and B: have a conversation. C, listen and record the strategies used by A and B by ticking the boxes when they use a strategy. After 5 minutes, change roles.

Conversation Strategy Use Recording Chart

Name	Asked follow-up question	Used "sustain" strategy	Asked about the meaning	Used re-joinder	Used tag question (confirming)	Used shadowing (confirming)	"Concluding" or "moving on"

編集後記

平成 24 年度の中央教育審議会答申『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて』では、プログラムとしての学士課程教育を通じた、AL 主体の授業により、学生の主体的な学修を推進する教育の提供を促す提言がありました。近年、高等教育にも AL が取り入れられるようになり、授業内ではグループワークやプレゼンテーションなどの授業活動が頻繁に使用され、また、授業外ではインターンシップや海外研修などの利用が増え、学生が主体的に学修するような取組が実施されています。

平成 6 年に開学した宮崎国際大学は、開学以来、AL による CT 能力の育成を目指した英語によるグローバル教育を提供してきました。本学の建学の精神である「礼節・勤労」の人材養成方針に基づいた国際的リベラル・アーツ教育を軸に、言わば、20 年以上も前から、先進的に AL を取り入れた高等教育を実施してきました。本学の AP 事業は、伝統的に実施してきた AL を発展させることを目的とし、AL を体系化することから取り組み、AL の学修効果を明確にした効果的な AL の提示・普及を目指しています。

そのような目的を達成するため、本冊子では、特定の学修成果に焦点を当てた AL を紹介し、また、他大学の教員も参考になるよう、具体的な手順も記載しました。英語で授業を行う本学の国際教養学部で重要な英語力、そして、開学以来、本学の教育で重視している CT 能力を育成する AL の手法を紹介しました。更に、教員及び学生の生の声を掲載することで、AL を実施する意図やその成果が具体的に感じられるようにしました。本冊子により、先進的に AL に取り組んできた本学の AL の手法を知って頂き、教育効果の上がる AL が高等教育に広がれば幸いです。

大 関 智 史

企画・編集：アセスメントオフィサー 大 関 智 史

編集：AP 事務補佐 西 中 雅 栄

発 行

宮 崎 国 際 大 学 AP 事 務 局

〒889-1605

宮崎県宮崎市清武町加納丙 1405 番地

TEL：0985-85-5931

本書に記載された記事の無断転載・複製を禁じます

